

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	17-056	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Prevalence and correlates of alcohol and tobacco use among pregnant women in the United States: Evidence from the NSDUH 2005-2014. 米国における妊婦のアルコールと喫煙が及ぼす有病率との関連について：NSDUH (National Survey on Drug Use and Health) 2005-2014 より		
執筆者		
Oh S, Reingle Gonzalez JM, Salas-Wright CP, Vaughn MG, DiNitto DM.		
掲載誌		
Prev Med. 2017 Apr;97:93-99. doi: 10.1016/j.ypmed.2017.01.006. Epub 2017 Jan 19.		
キーワード		PMID
妊娠、喫煙、飲酒、思春期、うつ病、刑事事件		28111096
要 旨		
目的：		
<p>妊娠中のアルコールおよび喫煙は、新生児に悪影響があるだけでなく、妊婦の健康を守るうえで最も重要な予防可能な因子である。しかし、妊婦への影響を検討した研究はほとんど行われていない。本研究では妊娠中のアルコールおよび喫煙の影響を明確にすることを目的とする。</p>		
方法：		
<p>米国において2005年から2014年に行われたNSDUH (National Survey on Drug Use and Health) を用いて、妊娠中の思春期の女性 (12-17歳) と成人女性 (18-44歳) のアルコール摂取率と喫煙率および二者の関連を調べた。対象は2005～2014年の人口ベースの薬物使用および健康に関する全国調査 (80,498人の思春期女性および152,043人の成人女性) を対象とした。</p>		
結果：		
<p>妊娠中に飲酒をしている者の割合は、思春期女性 11.5%、成人女性 8.7%、妊娠中の喫煙率は思春期女性は 23.0%、成人女性は 14.9%であった。妊娠していない思春期女性と比較して、妊娠中の少女は、過去 30 日間の飲酒状況は少なかった (調整オッズ比: AOR = 0.52, 95% CI = 0.36-0.76) が、過去 30 日間の喫煙は妊娠中のグループが、妊娠していないグループと比較して高い (AOR = 2.20、95%信頼区間 = 1.53-3.18) ことが分かった。一方、妊娠していない成人と比較して、妊娠中の成人は、飲酒 (調整オッズ比: AOR = 0.06, 95%信頼区間 = 0.05-0.07) および喫煙 (調整オッズ比: AOR = 0.47, 95%信頼区間 = 0.43-0.52) 双方でリスクが低かった。また、妊娠中に飲酒や喫煙を節制出来る人と出来ない人を比較すると、出来ない人は、過去 12 ヶ月間で大うつ病エピソードがあり、刑事事件に絡んでいる割合が高いという事が分かった。</p>		
結論：		
<p>妊娠中の酒類やたばこの有害な影響を考えると、双方ともに減らすことへの関心は高まっている。喫煙は特に思春期女性と成人女性の両方にとって課題であり、特に成人女性ではうつ病や刑事事件に影響していることが示唆された。</p>		